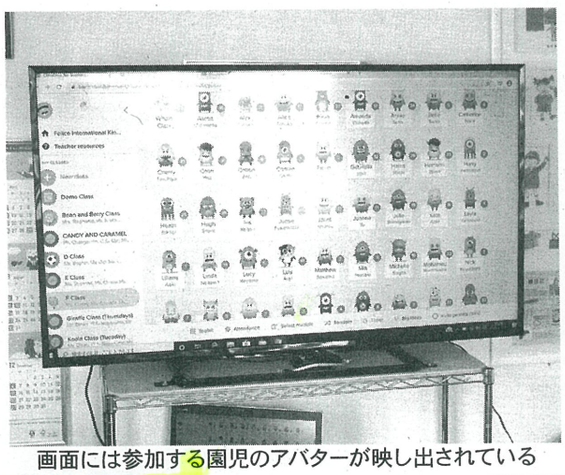
ぐんま経済新聞　（第三種郵便物認可）　2020.5.14

在宅園児に向け授業動画配信

好きなアバターで参加

認定こども園フェリーチェ国際こども園


画面には参加する園児のアバターが映し出されている

認定こども園フェリーチェ国際こども園（佐波郡玉村町飯塚、田村優子園長）は、新型コロナウイルスによる登園自粛要請を受け、在宅の園児に向けた授業動画を配信している。

登園自粛要請の結果、約200人の園児のうち、登園するのは約50人となっている。これを受け、園児が自宅で英語や工作などが学べ、遊びもできるよう授業動画の配信を始めた。幼児教育現場での遠隔授業の実施は全国でも珍しいという。

使用しているシステムは、アメリカの「CLASS DOJO」という教育機関に無償配布されているソフト。園児はウェブ上の好きなキャラクターのアバターを選んで授業に参加でき、こども園はどの園児が参加しているか一元管理できる。

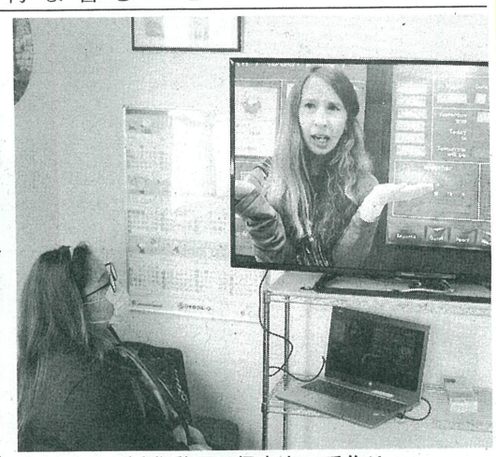
今回の配信に当たり、保育士が授業動画の講師、撮影、編集まですべて担当。4月5日のスタート以来、約5分ほどの動画が毎日5本ペースでアップされている。サイト内はIDとパスワードで管理され、園内関係者しか入れないようになっている。

同園によると、幼児の英語教育では一日一日が重要で、その生活をいかに維持させるかがカギとなる。今回の対応には保護者から感謝とエールが集まっているという。

田村幸子副園長は「どんな状況の時でも、学ぶことを諦めないでほしい。今回の試みは保護者への子育て支援にもつながり、新しい時代の教育の提供の仕方だと思う」と話す。

また、田村園長は「英語力は経済力。英語を自由に使える日本人を育てたい。そのために、意識の高い先生を集め、現代のニーズに応える教育を実施したい。その一方、素晴らしい日本のしつけも大切にしたい」と述べる。

（山田誠一）


授業動画は保育士の手作り

コロナ用防護シールドを販売

群馬電機 社内用を商品化

多くの要望を受け商品化を決めた

群馬電機（みどり市大間々町大間々、西村稔社長）は1日、新型コロナウイルス対策用の「飛沫（ひまつ）防護シールド」の販売を開始した。

同商品は飛沫感染リスクの軽減を目的としたアクリル製のパーテーションで、テーブルなどに置き接客するときの飛沫の拡散を防ぐもの。下部カーテンから書類の受け渡しも可能。

支柱・脚部はアルミニウム、シールド部がアクリル樹脂、カーテン部は塩化ビニール樹脂。高さは65センチで、横幅は使用環境に応じて、50センチから120センチまで8種類用意した。価格は税込1万3200円から。

社内の打ち合わせコーナー用に製造し、4月から応接時に活用していた。それを見た取引先関係者などから多くの要望を受け商品化を決めた。

商品化の要望を受けて販売に乗り出したもの。すでに部品会社や運送会社への納入が決定している。今後はホームページなどでPRするほか、介護施設などにも積極的に提案していきたいという。

（山田誠一）

経営者のお悩み解決します

支援

竹澤智弘
たかさき労務管理事務所
社会保険労務士

新型コロナウイルスの影響で緊急事態宣言が出され、そして自粛を求められていることもあり、経済活動にも大きな影響が出ています。群馬県内のかなりの会社が影響を受けてます。雇用を維持するためには雇用調整助成金は絶対に欠かせません。今回の要件の緩和についてまとめます。

特例的に100％にします。

上記に該当しない場合でも中小企業が休業手当を支給する際に、支払率が60％を超える部分の支払率を特例的に100％にしまいとだめでした。しかし、今回の緩和で、4月の場合は前年の4月から前々月の3月のうち、5％以上減少している月があればその月を比較対象とすることができるようになりました。実際、前年の売り上げが低かった場合には休業しても、前年の売り上げを上回ってしまい、該当しないケースもありました。今回の緩和で非常に使いやすくなったと思います。

医療・福祉

コロナパンフ配布 県医師会

群馬県医師会（須藤英仁会長）はこのほど、施設での新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、パンフレット「施設における新型コロナウイルス感染症の拡大を防止するために」を作成・配布を開始した。

作成部数は1万部。県内6159カ所の介護施設のほか、県内14郡市医師会と関係22団体に送付する。

同パンフレットには「感染防止のための基本的な対策」「クラスター」の発生防止のための対策」「風邪症状が出た場合等の対応」などが紹介されている。

最新医療機器を導入

患者のあらゆる症状に対応

ほりぐち鍼灸接骨院が移転

県道高崎駒形線沿いに開院

はり・きゅうや整体、骨盤矯正を手掛ける、ほりぐち鍼灸接骨院（高崎市新保町1555－3、堀口慶介院長☎027～353～4155）が7日、市内中居町から移転し開院した。

同院は平屋建てで建物面積は約140平方メートル。駐車場は15台分を用意。移転前はベッド数4台だったが、広くなったため8台を備えている。

院内には患者がボールを使った運動などができるよう、運動スペースも設けた。各ベッドや運動スペースを利用することで最大15人利用が同時に可能だという。また、従業員の働きやすさを考え休憩スペースやロッカーも広めに設けた。

移転に伴い、従来の低周波治療器と中周波治療器の機能を併せ持った、「ハイブリッド電気刺激治療器」を導入したほか、筋肉の柔軟性を向上させ、狙った筋肉にアプローチすることが可能な「ウォーターマッサージベッド」などの最新の機器を導入した。

同院のモットーは「すべての人を健康に。そして笑顔に。」で、骨折や脱臼、スポーツ外傷や交通事故治療、鍼灸治療、骨盤矯正など、患者の症状やニーズに合った施術を行う。

堀口院長は「導入した最新鋭の医療機器などを用い、皆さまの健全な日常生活の確保・高進に貢献できたらうれしい」と話している。

受付時間は午前9時から正午までと午後3時から同8時まで。休診日は日曜祝日。

明るく清潔で開放感がある院内